

2022年 日時●3月19日(土)

16時~18時終了予定

場所●ZOOM(オンライン)

参加方法●3月18日(金)23:59までに
以下のフォームからお申し込み下さい。
<https://forms.gle/shHBGg8Y5FahyHKcA>

【プログラム】16:00~

摺物に見る
上方芸能人の活動

●アンドリュー・ガーストル
(ロンドン大学東洋アフリカ研究学院名誉教授)

役者と最良

●倉橋正恵
(立命館大学衣笠総合研究機構客員協力研究員)

黄表紙と役者絵

●神楽岡幼子
(愛媛大学教授)

馬琴作品の歌舞伎化と
上方・江戸

●大屋多詠子
(青山学院大学教授)

全体討議・質疑応答

コメンテーター:

●佐藤かつら(青山学院大学教授)

●韓京子(青山学院大学准教授)

江戸時代の歌舞伎には、台帳などの幕内資料や、芝居番付などの劇場側が作成した出版物、その他、役者絵をはじめとした、歌舞伎周辺のさまざまな出版物が残されている。歌舞伎は舞台の上の芸能であるが、映像のない江戸時代については、当然ながら、これらの資料や出版物を通してのみ、当時の舞台の評判や役者の人気を伺い知ることができる。

本シンポジウムでは、歌舞伎周辺の、特に絵入りの出版物に着目する。これらは、歌舞伎の芝居や興行、役者についての情報を伝えるのみならず、それ自体が美しい印刷物でもある。東西それぞれの芝居と相互交流、歌舞伎・文学との交流の様相を、絵を通して考える。

一般参加歓迎
参加無料

国際シンポジウム

絵

と文化

青山学院大学日本文学会主催

歌
舞
伎
の
東
西

遺された絵入り出版物から、
歌舞伎の何がわかるか。

東西それぞれの芝居と相互交流、
歌舞伎・文学との交流の様相を、
絵を通して考える。